

媒体寿命評価に関する 活動状況報告



社団法人 電子情報技術産業協会
情報・産業社会システム部会
技術企画・標準委員会
磁気記録媒体標準化専門委員会

2007年10月

経緯/背景

- ◆ 媒体寿命評価SWGを2006年秋に新設し、情報処理用磁気テープの寿命予測に関し、媒体メーカーを中心に検討を行っている。
- ◆ 2006年は、国際学会での講演、学術論文及び媒体メーカーから発表されている資料の整理を行った。

その結果、下記の3点が確認出来た。

- (1) 国内媒体メーカー3社が個別に実施した保存試験により、15～19年の保存が実績として証明されている。
 - (2) 国内媒体メーカーの学術論文から、60～96年もの期待寿命が予測されている。
 - (3) 国際会議の講演からは、50～100年、あるいはこれを超える期待寿命の発表がある。
- ◆ これらから、最新のMPテープは充分30年以上の期待寿命があることが予測されたが、現在デファクトシステムとなりつつあるLTOなど最新テープについての具体的な保存データは無かった。

2007年の活動目的及び内容

- ◆ 現在主流のシステムであるLTO G3媒体を用い、全媒体メーカーが協働して具体的な保存データを取得する。(現在データ取得中)
- ◆ システムの寿命、OS及びApplicationソフトウェアの互換性寿命等を考慮すると、ユーザーが安全かつ安心して、一つの媒体にデータを保管して貰える目安は10年と考えられる。そのため、媒体としても10年以上の保存は問題ないことを実証する。
- ◆ 10年以上の長期に渡りデータを保存をする必要があるユーザに対しては、10年を目安に新しいシステムにデータをコピーすることを推奨する。

参画メーカー

- ◆ イメージョン(株)
- ◆ ソニー(株)
- ◆ TDK(株)
- ◆ 日立マクセル(株)
- ◆ 富士写真フイルム(株)